

上関地点 2022年度 上半期の環境監視調査結果について

水質調査の結果は、管理目標値を満足していた。

陸生、海生生物については、過去の調査結果と比較して顕著な変化は見られなかった。

項目		調査時期	調査結果概要			
水質	陸域工事排水の水質	4月11日 5月16日 6月6日 7月7日 8月9日 9月5日	水素イオン濃度、浮遊物質ともに管理目標値内であった。			
			項目	調査結果	管理目標値	
			水素イオン濃度	6.9~7.4	5.0以上9.0以下	
			浮遊物質 (日平均値)	5mg/L 以下	150mg/L 以下	
陸生生物	ハヤブサ	4月12日 4月26日 5月10日 5月24日 6月7日 6月21日	鼻線島において、4月に親鳥(雄・雌)およびヒナ2羽を確認し、5月、6月には巣立ち後の幼鳥2羽を確認した。親鳥は各月で確認した。			写真1
	植生	5月9、10日 ^{※1}	イヨカズラを7箇所16株、ジュウニヒトエを32箇所168株、イヌノフグリを6箇所226株、ギンランを1箇所2株、キンランを1箇所1株、ビヤクシンを1箇所1株。			写真2
海生生物	潮間帯生物	4月19、20日	植物ではワカメ、イワノカワ科など56種、動物ではアマガイ、イワフジツボなど43種を確認した。			
	海藻草類		ノコギリモク、サビ亜科など55種を確認した。			
	底生生物		ムラサキウニなど5種を確認した。			
	スナメリ	4月~9月 (週1回・計24日)	確認回数は計40回、延べ78頭を確認した。			
	カクメイ科等の貝類	5月11~13日 8月1~3日	カクメイ科の貝類は確認されなかった。 タイドプール ^{※2} 2箇所のうち1箇所は、岩盤の崩落があり、引き続き崩落の恐れがあるため、1箇所調査を実施した。			

※1 過去の調査結果を踏まえ、2回/年から1回/年に調査頻度を見直し

※2 タイドプール：干潮時に海辺の岩場にできる潮だまり

【参考】

《環境監視調査計画以外の環境調査》

- カンムリウミスズメ
7月に延べ3個体(天田島の南東[2個体])、(祝島の南東[1個体])を確認した。(写真3)
- カラスバト
計画地点において、9月に鳴き声を確認した。
鼻線島においては、5月に姿、8月に姿と鳴き声、9月に鳴き声を確認した。(写真4)

《その他》

- 鼻線島のミサゴ(レッドデータブックやまぐち2019「準絶滅危惧」、環境省レッドリスト「準絶滅危惧」)の繁殖行動状況について、継続観察した結果、7月に巣立ち後の幼鳥3羽を確認した。(写真5)
- 鼻線島において8月にクロサギ(レッドデータブックやまぐち2019「絶滅危惧Ⅱ類」)を既知巢内でヒナ2羽および親鳥の出入り(写真6)を確認し、9月にも周辺の岩場で3羽が同時に確認された。
- カクメイ科等の貝類調査において、8月にアラウズマキ(環境省レッドデータブック「絶滅危惧Ⅱ類」)を2個体確認した(写真7)
- カクメイ科等の貝類調査において、8月にシラギク(環境省レッドデータブック「準絶滅危惧」)を10個体確認した。(写真8)

【調査写真】

写真1:ハヤブサ



(4月12日 親鳥雌)



(5月10日 親鳥雄)

写真2: 植生



イヨカズラ



ジュウニヒトエ



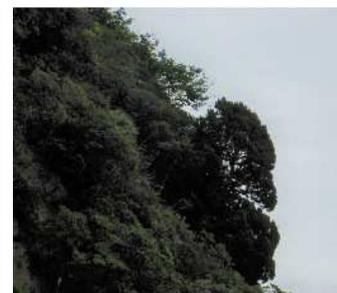
イヌノフグリ



ギンラン



キンラン



ビャクシン

写真3:カンムリウミスズメ



(7月7日 天田島の南東)

写真4:カラスバト



(8月8日 鼻線島)

写真5:ミサゴ



(6月7日 幼鳥3羽)

写真6:クロサギ



(8月9日 鼻線島)

写真7:アラウズマキ



(8月1日 タイドプール)

写真8:シラギク



(8月1日 タイドプール)

以上